

高退協ニュース

高退協事務局

1982. 1.

No. 12

- ・新年のあいさつ
- ・短歌四首
- ・新年のあいさつ
- ・越年
- ・高齢者集會に参加して
- ・五十七年度年金改定について

置頁新年

皆様おそろいで、よい初春をお迎えのこと存じます。

旧年は、高退協発展のため、いろいろと協力、ご支援いただきました。特に、機関誌「こうたいきょう」第二号発行については、多くの方々より投稿いただき厚くお礼申上げます。今後の諸活動についても、引き続きご協力下さるようお願いいたします。

私共も、みなさん方のご意見、ご要望を聞きながら、よりよき高退協をめざして努力すると共に、会員相互の親睦と、民主教育・反戦平和・高合者福祉の充実実現のため、高退協をはじめ各民主団体と連携して頑張りたいと決意しております。

一九八二年の年頭にあたり、皆さん方が健康でいつまでも若々しく、心豊かに第二の人生を楽しく愉快に過ごされるよう心より祈念致します。

一九八二・一・一
高退協会長

短歌四首

山原 健二郎

原爆もサリドマイドも削除する
天もおそれぬ教科書検定

ひたすらにアメリカ国を拜護して
嘲笑に耐ゆ日本代表

反核と軍艦のこえ西域の
地軸ゆるがし海鳴りのごとく

えみりかぶ地蔵のおわす定福寺
万葉木立ちの雪の落つ音

年あくる 疾風怒涛へ 星しづか

高教組執行委員長 坪井 幹之

明けましておめでとうございませう。

みなさんもお元気で新しい年をお迎えになつたことと思います。昨年は段んとうに激動の一年でした。労働戦線の右翼的再編を阻止するたたかい、教育大運動、ニセ「行政」粉砕斗争と、たたかいはあけ、たたかいはくくりました。その中で、約五十名の新しい仲間を高教組に迎えることができました。

世界はいま、平和か戦争かの岐路に立っています。「教え子再び戦場に送るな」私たちの運動も正念場をむかえました。ますます団結を固めて頑張る決意です。

みなさんのご健康を心から祈ります。

越年

富永 三雄

除夜の鐘を聞いて新春を近づく。一瞬の時の流れにすぎないが、年を重ねる感情はまだにある。白八の煩惱をほら鐘の音に、ふと、田中車団の国会議員もこの数字たつたことに気付いて、象徴的を異然の一致か苦笑する。

一九世紀の英国の桂冠詩人テニソンの「高鳴れよ、荒鐘」の詩がある。除夜の鐘の英國版だが、その詩の中で、彼は、鳴りて排すべきものとして、「貧富の反目・虚偽・欠乏・心配・罪悪・現代の不忠実な冷酷・地位家柄の誇り・文明に伴うザンネと悔恨・古き形のとあしき病・黄金の利己的欲求・無数の戦」をあげている。鳴りて迎え入れるものとして、「真理・万人の矯正・高き生活の様式・真理と正義の愛・善行のあまねく愛・千年の平和」を求めている。百年の歴史の変遷の中でも、排除すべきものと希求するものにはさしたる変化はなく、歴史を超越して、人間の同じような願望が存在しているのには驚かされる。

「真」と「偽」は常に交わりつづめるものだろうか。

それは、日本の現実だ。高退協の会員諸兄が現在の世相に対する感想として寄せられた回想が鮮明にそれを描写していた。そのくつかを列記すると、「右傾化が進んでキナクサイ」「年金に税金がかかる。一生税金に追いつかされる」「一気に軍国化・反動化している」「平和国家も、何処か行く。孫が鉄砲を持たされることを心配する」「閣内持田中魚栄の金権政治の浸透、米・レーガンの戦争挑発政策と、これに追従する民主党の卑屈な従属、憲法無視の暴政」「バカどもの火遊び、道理がひっこむ世の中」「テレビ・雑誌の汚染」「いつか来た道は軍国味で、ファッショムスの台頭か」「公明党の右傾化は恐ろしい。民社・

公明の別共非新主義」「戦後が終らぬうちに戦前が始まっている。あの悪い政治家がふえて日本が亡びる」「教科書検定問題にはあきらめかえる。巨視的には人間の歴史への自信はあるが」「軍事費を増大しても安全は買えない。世界的な軍拡はまるで大戦の前夜」「物置かたして心算し」「防衛司令部に何億の金。福祉切り捨てのニセ行革」「労せずして金を得る風潮は強まるばかり」「老人の心細い世の中」「明鏡」「この夏は夏の夏よりいくさへの梅の思いのいやましてくる」「外国の首領におもね、国防を高高に言う男らふえぬ」「三十一年前の朝鮮戦争前夜と五十年前の大韓戦争前夜の頃と両方合わせたような政府・支配層の動き。進うところは、戦後三十二年を待たぬ民主主義意識と民主勢力の存在と成長」「今に見ておれ」等々。

高退協会員は、八一年をすばらし、総括して、私の愚言は必要でない。執行部も一定の賞みを積み重ねた。会員名簿作製、親睦と学習のための情報の発行、機関誌発行定着化、反戦平和行事への協力参加、退職教職員の全業下のな編成の確立、教育の荒廃・非行・学問問題などに対する教育相談活動、それと、月見の宴・忘年会。香飲的な活動があった。高教組の協力・支援体制も感謝せねばならぬ。

そして、一九八二年を迎える。陳り付く年月の彼方に八一年は流れて、新春の季節となる。老令は人間を回帰的にするが、新しい年には新しい決意・希望・展望を持ちたい。悲惨な戦争の青春を体験して生き残った私たちである。民主・平和・主権在民・基本的人権、戦前には言葉にもならなかったものが、生涯の祝福を受けたことを知っている私たちである。だからこそ、戦後三十六年間に埋積された日本歴史の深刻重大な人民的危機を機敏に見抜いて、その真実を追求する責任を持つ私たちである。

安保強化・憲法改悪・ニセ行革・国民生活攻撃・教育の反動化・軍国主義復活の国家権力の路線と対決して、非核・非同盟・中立の民主主義日本を目指す、けわしい平和への坂道がある。このあたりは、八十年代日本の老人の新しい生き方が呼吸される。

八二年は成の年。ひとりの主を轟う犬は、忠実・純粋・没我・無限・盲目ですらある。そのひとつのなつかしき手。それは平和!!

高齢者集會に参加して

包圍 祥一

地公労主催の高齢者集會（九・一四）と、総評など三十四団体によって構成する実行委員会が主催する「九・一五高齢者大集會」（於・東京都体育館）に出席しました。

後者は、一万人をこえる大集會で、NHKの酒井アナ・小堀くるみさん両人の司会によって、賑あり、漫才あり、民謡ありの、盛大でたいへん和やかな集會でした。しかし、反面、今か行革に名をかりての高齢者の生活にむきかせる福祉切り捨ての諸々の政策に対する不安と怒りは、各方面からの真剣な訴えとなり、共鳴の叫びとなつて、異常なほどに盛り上つた大会でもありました。

前日の会の終幕中、当日行われたい行政各面への陳情・交渉の結果報告をされた各代表者七人が、描ってその交渉の成果の虚しさを訴え、「われわれはやっぱり選挙に勝たねば」と結んだ言葉がなんとも印象に残りました。

五十七年度年金改定について

事務局

行革一括法案が成立すれば、年金に対する国庫負担1/4削減が行なわれます。これは、三カ年の期限とし、その後は、国の財政事情・保険財政をみながら、適切な措置を講ずるといふことで、適合に置ては、三年後も削減が既定事実化することも危惧されています。（なお、国庫負担削減分は、積立金から充当されるので、年金が削減されることはありません）

年金改定の時期については、厚生年金が五月から十一月へ、国民年金の七月が翌年の一月に繰り下げられる可能性が大きくなりました。こうなれば、共済年金の改定実施についても、時期の繰り下げが行なわれる可能性があります。

労働金庫の年金取扱いが、本年三月一日より開始になります。

年金は労働金庫で

X X X X X X